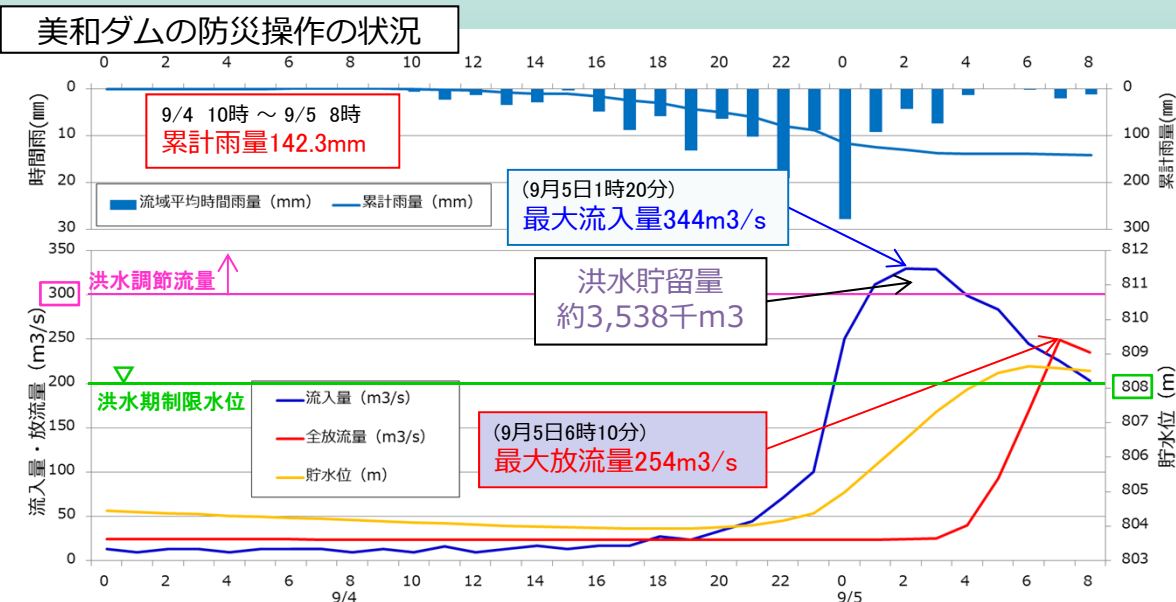
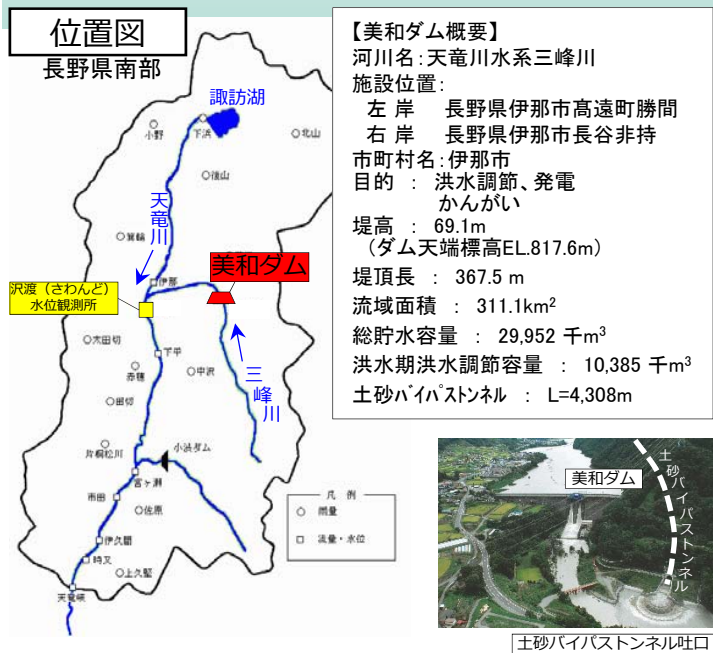


美和ダム 洪水調節効果【速報版】

※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正または追加をすることがあります。

- 非常に強い台風21号の影響により、9月4日の降り始めからの降水量(9月5日8時時点)は、美和ダム流域平均で142.3mmを記録しました。
- 9月4日より降り続いた降雨により、美和ダムでは9月5日に洪水量(300m³/s)に到達し洪水調節を実施しました。
- 洪水ピーク流入量は約344m³/sであり、沢渡水位観測所における水位低減効果は約38cmと推測されます。
- 美和ダムでは、戦後最大となる昭和58年9月洪水、平成18年7月洪水と同規模の洪水への対応及び、洪水調節機能の保全のため、三峰川総合開発事業を実施中です。
- 今回の出水でも土砂バイパストンネル※の試験運用を行い、約3万2千m³の土砂流入を抑制したと推定されます。

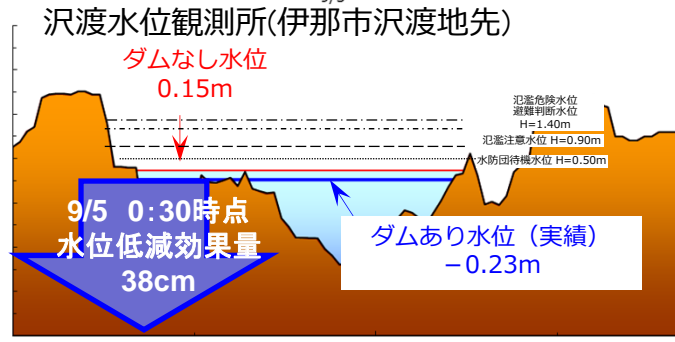
※洪水時に上流から流入してくる大量の土砂を美和ダムを迂回させ、ダム湖に流入する土砂を抑制するための施設



ダム下流における 水位低減効果

今回の洪水調節により、下流における水位低減効果は約0.38mでした。また、土砂バイパストンネルの試験運用を行うことで、貯水池への土砂流入抑制に効果を発揮しています。

※土砂流入抑制効果の詳細は三峰川総合開発工事事務所のHPIにて公表。



小渋ダム 洪水調節効果【速報版】

※本資料の記載数値は「速報値」のため、後日一部訂正または追加をすることがあります。

- 非常に強い台風21号の影響により、9月4日の降り始めからの降水量（9月5日8時時点）は、小渋ダム流域平均で184.9mmを記録しました。
- 小渋ダム管理開始以降（49年間）で4番目の流入量501m³/sを記録しました。
- 小渋ダムでの防災操作の実施により、最大約3,824千m³の水を貯留し、ダムがない場合と比較して、ダム下流の宮ヶ瀬地点の水位は、約30cm低下したものと推定されます。
- 土砂バイパストンネルの試験運用を行い、貯水池への土砂流入を抑制しております。



【小渋ダム概要】

目的：洪水調節、発電
特定かんがい

堤高：105.0m
(ダム天端標高EL.620.0m)

堤頂長：293.3 m

流域面積：288.0 km²

総貯水容量：58,000 千m³

洪水調節容量：33,900 千m³
(梅雨期)

計画最大流入量：1,500m³/s

計画最大放流量：500m³/s

管理開始：S44年7月～

